

CSR報告書は、CSRへの取り組み状況の報告だけでなく、企業理念の実現のための計画、実行、検証、改善と理念の再確認という一連の取組み(PDCA)に対するコミットメントの発信ともいえます。本年も、そのような視点から意見を述べたいと思います。

株式会社インテグレックス
代表取締役社長

秋山 をね氏



1 評価したい点

グループとして、事業活動のすべてで「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念の実現のために、全員参加で取り組みを進めるという変わらない姿勢は高く評価できます。

毎年、企業行動憲章の項目に沿ってCSR活動の目標を設定し、各社で取り組みを行っていますが、本年は、報告書に掲載されている「CSR目標と取り組み状況」の表がより充実し、「活動目標」と「取り組み状況」に加え、取り組みに対する「評価」、「今後の取り組み・課題」と具体的な取り組みについての「掲載ページ」が記載され、PDCAを廻しながら着実に活動を進めていることがわかり、評価できます。

特集の「シチズン・オブ・ザ・イヤー20周年」は、地道な市民活動に光を当てているところにシチズンらしさを感じるとともに、それを20年継続していることが、まさに企業理念の具現化のひとつであると感じ、印象的でした。

具体的な取り組みについては、たとえば、「CSRの基盤」の社内通報制度に関して、外部通報窓口の設置など、通報環境を整えるだけでなく、「CSR意識調査」によって、従業員の窓口の認知度や利用意向、制度の課題などを検証して今後の改善につなげたり、「お客様とシチズン」での定期的な「お客様満足度調査」の実施や、さまざまな事業でお客様の声を活かそうとする取り組みなど、ステークホルダーからのチェックを受けながら取り組みを改善していこうという姿勢が感じられます。

「環境経営」では、昨年に続き、今年度の目標、実績、評価が示され、PDCAを回しながら継続的に取り組んでいることがわかります。また、環境方針の改訂により、「小さいは、エコになる。」というスローガンとともに、小型精密技術というグループの軸に焦点が当たり、従業員一人ひとりにとって、「仕事」と「環境」がより密接に結びついたのでないかと感じます。

2 今後に期待したい点

海外での課題や取り組みについて、「グループCSR活動状況調査を実施した結果に基づき、海外でのCSR活動が遅れていることもあり、2010年度の最優先課題として取り組みます」という記述があります。グループのCSR活動状況調査というチェックを実施し、課題を把握したことは評価できますが、売上、従業員数とも6割近くが海外というグローバル企業として、リスクマネジメントの観点からも、海外での迅速な取り組みの展開が期待されます。

「従業員とシチズン」については、「全員参加型CSR」の担い手としての従業員が、力を発揮できる環境をつくるための取り組みが紹介されており、取り組みや制度自体は評価できますが、制度などの紹介だけでなく、それらがどのように利用され、従業員の誇りややりがいに結びついているか、従業員の「声」をより多く掲載するなど、取り組みの成果についての、より突っ込んだ検証が欲しいところです。

3 未来に向けて

今や、CSRのSは、社会(Social)のSから持続可能性(Sustainability)のSへ、Rは、責任(Responsibility)から尊重(Respect、あるべき姿、ありたい姿の尊重)へと進化してきています。これからも、「市民に愛され市民に貢献する」企業として、世界をリードする「Micro HumanTech」を活かし、全員参加で、地球と人の豊かな未来に貢献するものづくりを続けられることを期待します。